航空事故調査報告書
日本航空株式会社所属
ダグラス式ＭＤ－１１型ＪＡ８５８７
シベリア上空
平成７年１２月３０日

平成8年2月1日

航 空 事 故 調 査 委 員 会 議 決

委員長　竹 内 和 之

委　員　小 林 哲 一

委　員　川 井 　 力

委　員　東 口 　 實

委　員　相 原 康 彦

１　航空事故調査の経過

１．１　航空事故の概要

日本航空株式会社所属ダグラス式ＭＤ－１１型ＪＡ８５８７は、平成7年１２月３０日１４時４４分（協定世界時１９９５年１２月３０日０５時４４分）、同社定期４１１便として新東京国際空港を離陸しアムステルダム国際空港に向け飛行中、平成7年１２月３０日１９時４５分ごろ、北緯６４度、東経１０７度付近（シベリア上空）において、乗客１名が機内で死亡した。

１．２　航空事故調査の概要

1.2.1　調査組織

航空事故調査委員会は、平成８年１月４日、本事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

1.2.2　調査の実施時期

平成８年1月５日　　事実調査

1.2.3　原因関係者からの意見聴取

意見聴取を行った。

2　認定した事実

ＪＡ８５８７は、平成７年１２月３０日１４時４４分（協定世界時１９９５年１２月３０日０５時４４分）、同社定期４１１便として乗組員１５名及び乗客１８５名、計２００名が搭乗し、アムステルダム国際空港に向けて新東京国際空港を離陸した。

同機がアムステルダム国際空港に向けて飛行中、１７時５７分ごろ、乗客の男性（７１歳）が、急に意識を失ったため、乗り合わせていた医師及び客室乗務員により、酸素吸入、心肺蘇生が施されたが、１９時４５分ごろ、北緯６４度、東経１０７度付近（シベリア上空）において、同医師により死亡が確認された。

同医師の診断によると死因は、心筋梗塞であった。

なお、同行者によれば、当該乗客には前胸部痛の既往症があったとのことである。

3　原　　因

本事故は、飛行中、航空機内で乗客が心筋梗塞により死亡したものと認められる。